

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター冬季号<第66号>(平成17年12月15日発行)

巻 頭 言

第32回技術士全国大会を振り返って

第32回技術士全国大会実行委員長

甲斐 忠義(建設・福岡)

大会テーマを「技の連携・培う地域の新文化」とした第32回技術士全国大会(福岡)の関連行事及び本大会が本年10月18日から10月21日の4日間にわたって開催されました。参加者は、懇親ゴルフ大会が24名、ウェルカムパーティー140名、大会当日のレディスコース見学会21名、テクニカルツアー33名そして本大会が630名でありました。大会を振り返りご報告します。

大会準備は、平成16年2月に実行委員会が発足しましたが、最初の検討事項は9月に開催される北海道大会に次期開催地として配布する案内リーフレットの原案作成でした。大会テーマ、分科会テーマ、大会規模、会場の決定、記念講演、関連行事など6ヶ月間で決定し、北海道大会での引継ぎ式では博多どんたく隊の衣装よろしく九州からの参加者が壇上で次期開催を披露しました。つづいて12月4日開催の第24回地域産官学と技術士の合同セミナー、年が明けて2月25日開催の技術セミナー「先人の残した土木技術とロボット技術開発」に全力で準備活動をしました。この技術セミナーが終了後、分科会テーマに沿った基調講演講師、パネリストの選定を本格化しました。この間の6月3日開催の第11回西日本技術士研究・業績発表年次大会は、佐賀・長崎県技術士会にお願いし主たる準備作業は、佐賀県技術士会事業委員会を中心として実施され大盛会のうちに終了しました。大会の参加募集が始まった8月初旬からは、参加者数に気をもみながら具体的に会場設営、参加者受付、交流会の運営方法などの検討に取り組みを本格化すると共に、記念誌編集・印刷に向けての作業でした。分科会委員会では、発表者全員のパワーポイントを1枚のCDに編集したり、分科会主査の大会報告パワーポイント資料の作成など多忙のようでした。1方裏方の総務委員会は、PCやプロジェクターを大手建設コンサルタントから担当者ごと借りるため走り回っていました。記念誌委員会は原稿到着の遅れにやきもきし、研修見学委員会は、ゴルフ参加者の確保に奔走し、事務局は大会参加者の参加申し込みの遅れから参加者名簿の作成に手間がかかっていました。会場参加者の多くの声として、記念講演「水素利用社会実現への課題」の中で九州大学院村上敬直教授が安全な水素利用社会の実現に向けての技術開発の取り組みをお話をされたがそれ以上に教授の進める総合技術を開発する研究教育者養成の姿勢を評価していたようである。博士課程の学生に異分野の研究者学生との討議を通して異なる専門技術の相互修得を行うと共にインターンシップ、国際連携体験を通して広い視野を有する博士を育成していくという人材養成に取り組む事業推進者の教授に感動されたということである。交流会では、アトラクションの博多踊りの艶やかな美しさに魅了され、しくみデザインでは、人の動きが音楽と映像を創り出すしくみに興味を沸かし、和やかな歓談の中無事終了できました。最後の引継ぎ式で、次回東京大会の運営委員一同十数名が祭りはっぴ姿で大変気合いのこもった次期大会参加を呼びかけました。全国大会は、技術士の社会的地位の向上、会員の親睦交流、技術研鑽ですが、今後、今回の大会テーマの実践に向けて支部会員技術士が活動しなければなりません。支部常設委員会を初め福岡地区の各支部、各県技術士会の活動を強化していくことを期待しています。最後に実行委員会を協力・支援して下さいった支部会員の皆様に感謝します。

故水上前支部長・センター会長追悼

水上前支部長・センター会長への追悼

支部長 光岡 毅（建設・福岡）

水上先生は、9月29日に他界されました。まさに、巨星落つという気持ちです。

一月前の8月26日には、水上先生のお声がかりによって福岡市役所から調査船を出していただき、博多港内から地震のあった玄界島にまでの博多港全域についての見学会がありました。案内役の市役所馬場崎部長のご説明のなか、説明時間の半分以上は水上先生がマイクを持って博多港の整備の歴史、地勢、地形、地質にまで詳しくご説明をされました。これを伺った我々はその内容の詳しさに大変な驚きと、感銘を受けました。先生は、昭和22年宮崎工業専門学校を卒業後すぐ福岡市役所に入られ戦後の荒廃した博多港の復興、むしろ新しい博多港の建設に携われ計画から建設まで24年間の若き時代をすべて打ち込んでこられ、博多港の隅々まで頭の中に入っていたのでしょう。

先生が港湾局時代の昭和44年に技術士試験に合格され、市役所をご退官になった昭和55年から技術士会に入会されました。その頃はまだ九州支部はなく技術士センターであったと聞いています。先生は、会員からの信頼も厚く、すでに4代前平成7年から9年までの間の支部長を勤められて多大な功績を残され、また、本部からは名誉会員としての栄誉も受けておられます。

支部の様々な会議に先生は熱心に出席されていました、会議終了後博多駅の地下商店街の片隅にある「カロ」という食堂に寄って口角泡を飛ばし大議論をするのが常でした。それぞれ大酒豪であった水上先生、故田中前支部長と事務局長の古賀さんは三大知識人ともいうべきで、話題も尽きず第二次世界大戦の時の話題、海軍・陸軍、現在の靖国神社の話、あるいは、博多の町の歴史また健康法などの話題が面白く、参加している我々も酒の味がよく気持ちよく酔いながら、気が付いてみると10時過ぎていて、あわてて帰るということがよくありました。

技術士全国大会は、水上先生も楽しみにしておられましたが、さぞ残念な思いで旅立ちされましたと思います。

先生の偉大なる業績と人格に深く敬意を表し、水上先生のご冥福をお祈り申し上げます。

水上先輩を偲ぶ

大分地区代表幹事 吉良 文至（建設・大分）

朝に紅顔なれど・夕べに白骨と化す・身なり、人の世のはかなさに思いをめぐらし水上信照先輩を偲ぶ。

水上先輩の技術士と技術士会に寄せる情熱をご逝去された今になりあらためて感動しています。

平成7年8年と九州支部長同センター長時代の実績はもとより、昭和45年当時の技術士会黎明時代の初代轟支部長が九州技術士会の設立にご尽力された事を赤裸々に私ども後輩に説明され、九州技術士センターの歴史とその価値観を説得されていました。今にして思うと、是非とも生きながらえて「生き字引」としての大役をお願いしたいところですが、残念なことでございます。

時代は前後して、昭和62年から九州技術士センター会長の重責をまっとうされました、当時は

- 1)、財政基盤の確立
 - 2)、支部組織の見直し
 - 3)、活性化への事業推進
- を柱に努力されました。

昭和63年秋第15回技術士全国大会が九州で開催されることで前年度から準備に取り組み開催地を大分県別府市でと提案され昭和63年10月2日当時の大分県平松知事が一村一品の講演されました。あのころの話で、過去の技術士会においてあれほどの会はなかったと絶賛を受けたのも水上先輩の情熱と協力者のパワーによるものでした。

平成9年度「第24回技術士全国大会を成功させよう」をスローガンにご活躍された事は特筆に値するものでした。

今年10月18日から20日までの「第32回技術士全国大会」が九州福岡で大成功に実行されましたが、その大会直前9月29日に永遠の旅たちをされた事はご本人、水上信照先輩としてさぞかし無念な事だったでしょう。「第32回技術士全国大会」が大成功に終わりました事をご報告申し上げます。

ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

惜別の詩

あつというまのじんせいを
技術いらずにまっしぐら
会のため世の為ひとのため
わが身を投げ出しひたすらに
七十余年の生きざまを
知る人ぞ知る

誉れ高き人生かな

妻や家族にささえられ
往きとしみちをふり返り
これから先に我が世の春を
楽しき余生の道とめ
一人旅立つ世のならい
知る人ぞ知る

誉れ高き人生かな

文至より

熱血技術士 故・水上信照先生！ どうか安らかに眠り下さい！

九州技術士センター会長
小出 剛（農業・福岡）

元日本技術士会九州支部長、そして2度の九州技術士センター会長を務められ、全会員が敬愛してやまない水上信照先生は、平成17年9月29日にご入院中の福岡赤十字病院で永眠されました。享年81歳で、最愛の御令室はじめご子息や関東、北海道から駆けつけられたお孫さん方、全ご家族に見守られての安らかなご臨終であったとお伺いしています。

本部の政策委員会で上京する前日にお見舞いしたところ、丁度お眠りされている時間で、予想に反して重篤なご容態である旨を御奥様から伺いましたが、何とかして病魔克服をなさるようにとの願いも虚しく、会議中の本部で訃報に接する結果となりました。

先生には支部長時代から現在まで、私は技術士会活動を通じて沢山のお世話になり、ご指導を賜りました。中でも思い出されるのは、第32回日韓技術士会技術士福岡大会では、見学宿泊先の別府温泉で、お世話を担当した、池田先生（現・副支部長）と私の2人に対して「良くやった、慰労会をしたい」と山口一弘実行委員長を通じて伝わって来たこと、また平成13年、15年の2回の理事選挙出馬に際しては格別のご指導を賜り、特に2期目の選挙では最高得票を頂いたことをご自分の事のように喜んで頂いたことなど、常にお心温かい真摯なご指導を頂きました。

また会議では、しばしば熱弁鋭く正論を主張される反面、善行の会員に対する賞揚にもお気遣い厚く、また絶対に他人の陰口などを言われた事の無い先生でもありました。

建設部門（港湾）技術士の先生は、ある時は水産庁にも出かけられ、漁港選択の水産部門技術士にも光をあてるための努力や他部門のCPDへの積極的なご参加、そして福岡市職員OBとしても現職・OB技術士の技術士会への入会促進にも大きな力となっていました。このように、常に全体に渡ってのご配慮を心がけておられたことにも頭が下がります。

先生は、昭和22年に宮崎高専（現・宮崎大学工学部）をご卒業後福岡市港湾局に入られ、同局や水道局等の最高幹部として幾つかの市外郭団体の重職を務められた後、民間コンサルタントの技術士としてご活躍の傍ら、技術士会活動に精力を注がれましたが、会議後の飲み会等では、好々爺然と、豊富なご体験の下での「人の道」を説いて下さるなど、常に楽しいお付き合いでした。

お亡くなりになる2ヶ月前には、「全国港会から依頼を受けての『博多港の記念誌』執筆にあたり、

小出さんの力を借りたい。」との話がありました。内容は「崇拜していた優秀な港湾技術者（昭和18年運輸通信省第四港湾建設部長等）・後の下関市長・松尾守治様の追悼記念誌『松尾守治氏を偲ぶ』から引用したいが、同誌がどうしても見つからないので、君の懇意にしている松尾様のお子息から借りてきて欲しい……」とのことで、早速借り受けてお渡しましたが、返却時に私へのお礼として、ご夫妻で作られたお心づくしの葡萄を沢山頂いた事が8月20日で行われました。先生の松尾守治様に対する畏敬のおもいを日頃からお聴きしていただいただけに、この執筆が未了になった事は、先生の残念な胸の内が拝察されて大きなものがあります。今頃は、お浄土での再会時期かとも想像いたしておりますが。

また、安藤・前副会長（前・広報委員長）から、「ご功績のある水上先生を完戸・前支部広報委員長がインタビューされる予定として、記事を月刊『技術士』に載せたい」とのご相談を受けて、先生の内々のご同意を4月末に得て、理事として最後の役割も果たせたと安心しておりました。インタビューは10月に行われ、12月号掲載の行程に先生は大変喜ばれ、期待しておられたのですが、未完に終わったことは、会員一同残念至極のこととなりました。

先生が本誌30号巻頭言で、「30号を迎え、『数は力なり』であり、紙面2枚4頁から出発した本誌が順調に出版出来たのは、小松榮一、棚町修一、田中譲治の諸兄の献身的なご努力であり……、支部・センター会員への情報提供として充実して来た……」と感謝の意を表しておられます。また、51号巻頭言では「日本人よ胸を張りなさい」と題して、台湾人作家・蔡氏の「台湾人と日本精神」を紹介されて、『日本の若者達に対して、台湾ではあなたの方の先人達が実に立派であったことで、今も台湾の地で「日本精神」が崇拜されていることから、「日本人よ目覚めよ、自国を愛せよ、そして日本人よ胸を張りなさい!」の内容が熱血漢先生らしいタッチで書かれています。両誌を改めて拝読し、感動を覚えます。

かねてより、持病の事はお聴きしていたので、飲み会などでは慎重なご対応をと私達も留意した積りでしたが、持病とは異なった胃がんの急速進行でお亡くなりになろうとはご自身も含めて想像出来なかっただけに、誠に残念で、痛恨のきわみであります。

先生から引継ぎました九州技術士センター会長の役割は、未熟な私ではありますが、支部・センター諸賢のご協力の下、先生の御意思に従い、必ずや更に実りあるものに致す所存でございます。どうか安らかに眠り下さいますよう、心から祈念申し上げます。

最後に、訃報に接して自然に浮かびましたおもいを歌にして、ご葬儀の折にも献上致しましたが、今一度、ここに捧げさせていただきます。

先達を 今、喪失いて秋の風 無常の運命やるか
たぞなき。

第4分科会（技術者倫理）から学んだこと

第4分科会主査 沖部 俊昭（経営工学・北九州）

8年振りに福岡で開催された「第32回技術士全国大会」が盛会裏に終了した。軽率な私は、仕事の内容も確認しないまま、第4分科会の主査を引き受けた。そして、大過なくと言いたいのですが、多くの方々に助けられながら、ボロを出さずに済んだのが本音です。

ご承知のように、第4分科会は、技術者倫理に関して技術士会生涯教育推進実行委員会が論文募集し、応募論文の中から選考推薦された論文の発表講演が主であった。優秀論文に推薦された北海道支部の浦田先生の「技術者から専門家へ」の論旨は、技術士の皆さん専門家をめざして努力していますかの問いかけであると感じた。先生の言う専門家とは、自律性、新しい知識の習得、倫理観の醸成を常に心がけ、社会に役立つ仕事を実践している誇り高き技術者である。また中部支部の比屋根先生の講演「技術者倫理活動実践の基礎」は、中部支部内に自主的に立ち上げたE Tの会（技術者倫理勉強会＝メンバー30名）の活動成果の発表であった。技術専門家の必須条件となった技術者倫理を、近隣大学の倫理教育関係者を加えて定期的に学習を継続中である。

昨年春、当九州支部 第6部会（環境、経営工学、情報）活性化の足がかりを得る為、全部会員71名を対象にアンケートを実施したことがあった。その設問は、①技術士会の諸活動に何を期待するか。②第6部会の活動に何を期待するか。③第6部会活性化のためあなたは何が出来るか。④部会の研修はどのような形式が良いか。⑤その他コメント

からなり、各設問には選択肢が用意された記入簡単なアンケートであった。しかし、回収率32%と散々な関心度であった。IT通信ネットの整備未完を言う人もいたが、FAXや電話を含め使用可能な通信ネットは、全て使用した結果である。アンケートに記されていた建設的なコメントを頼りに、部会員交流会（環境経営の講演を含む）開催を正式提案した

ところ、参加申込者は3名であった。残ったのは、企画側の無力感と、現状CPDのあり方への大きな疑問であった。

専門家としての自律性あるCPDとは何であろうか。誰でも理解できる一般教養的知識や、工場施設見学を、企画者の意向通りに受講して、資格維持に必要な年間CPD時間を累積することだけではないと思う。日進月歩の技術専門分野で、専門家として認知され、評価の高い仕事をする為には、常に最先端の技術を吸収しておかねばならない。そして、自ら進んで、自分の足りない点を自覚補充し、自分一人の努力では無理な場合、同じ専門分野の会員と協力することで、効率的にそれが可能になる。私自身、今回技術者倫理論文への応募に関して、3人での共同作業をしたが、ITネットを活用すれば、会合はしなくても、緊密な共同作業が十分可能であった。要は、自律的に作業（研鑽）に取り組む意識の問題であろう。

技術専門家として、必要なことは、高度な知識だけでなく、最新で高度な専門知識をベースにした応用実践力である。勿論この中には、公衆や社会の福祉を最優先する技術者倫理の実践も含まれる。リタイアして生産現場から離れた技術者が、これからも高度な技術応用力を保持するには、UPDATEな専門技術の研鑽は絶対必要である。1～2年毎に出身会社にインターン研修に戻り、専門技術に関して自己を磨き直す機会を受け入れてくれる会社はあると思う。その研修期間に会社の問題点の解決に役立つ仕事ができれば、一石二鳥である。あるいは、技術士としての委託業務遂行の中で、新技術の習得に励むことも可能であるが、いずれにしても、現行の受身のCPD受講では、専門家としての評価維持は無理だと思う。

技術具現に技術者倫理の重要性が言われるが、倫理の要素には自律的行動が不可欠であることを学んだ。

理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事・九州支部副支部長 是永 逸生(機械・総合技術監理・北九州)

前号では6月の理事就任から7月に開催された第2回理事会までの報告をしました。

本号の報告期間では9月に第3回理事会が開催されましたのでその結果を報告します。

平成17年度第3回理事会

(9月15日13時30分～16時)

今回で本年度第3回目の理事会となり、本格的な活動に入っていた。

以下審議事項と報告事項に分けてその概要を記す。

1. 審議事項

- (1) 部門・部会検討特別委員会の委員委嘱について

(目的)「技術士技術部門及び日本技術士会技術部会」のあり方について調査検討

委員7名を会員数の多い・中程度・少ない部門から各2名程度選考

全部門からのメンバーで構成されるワーキンググループを設置し、20部門の意見を聞く。

- (2) 会員拡大・技術士活性化推進特別委員会の委員委嘱について

(目的)「組織・制度改革への行動指針」に示された会員拡大に関する事項、「職域別技術士の位置付け・行動指針」の検討及び技術士全般の活動活性化

委員8名を支部、部会、企業内技術士から選考；支部委員(九州、近畿、中部)

- (3) 会員推薦状の交付制度導入について(北陸支部長からの発議)

(目的)会員の業務拡大、職場開拓のための支援の一環、会長名による推薦状を交付

- ① 交付の要件 (会員歴、活動歴、CPD登録、人格技術力)

- ② 手続きの概要 (支部長・部会長に申請、書面様式は別途検討)

- (4) 委員会委員の異動(九州支部関係のみ表示)

田辺努(機械・総合、第7部会長)

(青年技術士交流実行委員会)

甲斐忠義(建設・副支部長)

(第33回全国大会東京運営委員会)

2. 報告事項

- (1) 「組織・制度改革本部」第6回本部委員会報告(9/6の会合)

「組織・制度改革への行動指針」：特別委員会と政策委員会での検討項目の重複は避ける。

特別委員会⇒①部門・部会検討、②会員拡大・技術士活性化推進(光岡)

政策委員会小委員会⇒③基本事業検討、④代議員制度検討、⑤地域組織検討(小出)、⑥定款等諸規程検討

- (2) 平成17年度技術士第一次試験申込状況(人)

注：() 昨年実績

全国計：44,511(55,400) 福岡：5,143

- (3) 平成17年度技術士第二次試験実施状況(人)

総合：全国申込 5,865(6500)、受験 4,286、

福岡申込 510、受験 367

一般：全国申込 25,599(19,100) 受験

16,826、福岡申込 2,388、受験 1,517、

失格者：5%(番号違い、2枚目以降の番号書き忘れ)⇒内容分析して対応予定

- (4) プロジェクトチームの設置(業務委員会の業務)——3プロジェクトを設置

- (5) 会員の訴訟について——衛生工学会会の会員同士のトラブル

- (6) 常設委員会等の報告

各委員会共に副委員長選出、活動WG等の体制造りが完了

政策委員会；運営手引き、小委員会の課題を定めて活動開始

事業委員会：活動の進め方を制定して活動開始。

H18年全国大会運営委員会：大会テーマ「知の創造—技術士の役割」H18.9.5—8

特別講演「毛利衛：宇宙航空の展望」折衝中、九州大会にパンフレット配布

- (7) 会員等の入退会状況

H17.7.E：会員 11,139、合計 13,941 賛

助会員 222

H17. 6 - 7 の入退会者一覧表入手（九州支部で管理）

(8) その他

① 第32回全国大会福岡への参加をPR（申込書、パンフレット、プログラム配布）

② 北海道支部にてeラーニング試行テスト中、九州支部も検討が必要。

平成17年度第2回支部長会議報告

九州支部長 光岡 毅（建設・福岡）

本年度第2回支部長会議は、9月20日本部葺手ビル会議室で行われました。

出席者は：

本部から 都丸会長、永田副会長、神戸副会長、北村副会長、竹下専務理事、畠山常務理事、大谷常務理事ほか事務局

支部から 大島北海道支部長、中山東北支部長（担当支部として川端さん）、吉川東北支部長、辻中部支部長、村山近畿支部長、牧山中四国支部長、光岡九州支部長

● 会長挨拶の趣旨

わが国の経済の発展にとって技術者は大変重要な役割を果たしている、技術士会は技術者をきちっと管理して特にチェック機能を十分発揮できるように努めなければならない。これまで、技術士会はこの面では怠っていたのではないか。

これからは、ビジョン21によって行動して組織を固めなければならない。

● 本部議題・報告

1. 17年度第2回及び第3回理事会報告より（是永理事より報告）

1) 組織・制度改革本部報告について（是永理事より報告）

2) 政策委員会の活動状況について（小出委員より報告）

3) 会員拡大・技術士活性化推進特別委員会報告と要請について（光岡委員より報告）

本報告の後に続けて報告する。（下記〈別紙〉）

2. 平成17年度技術士第一次試験申込状況について（44,511人 全技術部門計）

3. 第二次試験実施状況等について

総合監理部門 申込者 5,865人 受験者数 4,286人

総合以外 申込者 25,599人 受験者数 17,235人午前 16,826人午後

● 事務局報告

1. 支部における統合会員情報について

－会員名簿の発送

年1回4月末 東京で出力した 支部別、部門別、県別等それぞれ50音順で支部宛送付する。また、HPを活用した情報提供する（パスワードにより権限者を限定）

－月別会員異動情報のHP

支部別、部門別、県別等それぞれ50音順で提供 10月3日利用開始

－宛名ラベル作成（会員番号別指示）

－支部広報誌の月刊誌との同送（九州支部としては前回より実施）

2. 地域組織のあり方検討に供する県等技術士会の現状調査のお願い（小出委員より報告）

政策委員会より支部長当て調査依頼があり既に本部に対し報告済み。

調査趣旨は、ブロック支部のほかに各県別に県組織をもっているが、この組織と今後どう付き合っていくかを模索している。そのため、組織の実態を調査するもの。

● 支部報告

北海道支部 第25回地域産学官と技術士合同セミナーの開催報告

会員増強について

東北支部 支部会員の増強について

北陸支部 特になし

中部支部 事務局体制の強化

近畿支部 近畿各府県間の防災・減災ネットワーク作り第1回ミーティング

中国・四国支部 本部と支部の意識の格差、会員増強問題

九州支部 全国大会出席者増加の依頼

<別紙>

会員拡大・技術士活性化特別委員会の報告

1. 日時・場所 9月16日 本部算出ビルD会議室
2. 委員長・幹事の選出
 - ① 委員長に北村友博技術士(副会長)
 - ② 幹事に大野博久技術士が全員一致で選任された。
3. 委員

委員長	北 村 友 博	近畿支部／情報工学	ピークコンサルティンググループ(株)
幹 事	大 野 博 久	建設、総合技術監理	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	石 井 一 夫	生物工学	東京理科大学
	亀 澤 靖	建設、総合技術監理	大成建設(株)
	川 畑 真 一	電気電子、情報工学、総合技術監理	(株)日立製作所
	増 古 恒 夫	情報工学、総合技術監理	パシフィックシステム(株)
	光 岡 毅	九州支部／建設	九州建設コンサルタント(株)
	渡 邊 好 啓	中部支部／機械、総合技術監理	共栄テクニカ(株)

4. 特別委員会での決定事項(委員会議事録より)
 - ① 本委員会は、議論もするが「行動」する委員会として、会員拡大および活性化を推進する。
 - ② 次回委員会の開催は11月18日(金)13:30～17:30、東京地区委員による「作業部会」を10月14日(金)13:30～17:30に開催する。
 - ③ 本委員会の活動を滞らせないため、本部にメーリングリスト(ML)を設定し、どんどん議論を進めることとする。MLアドレスは事務局から伝達する。
 - ④ 本年度の会員拡大目標を3千人(06年3月末／前年比)とし、3年後の目標を2万人とする(08年3月末／05年比)。
- ⑤ 技術士会全体での活動に必要がある。次回支部長会議および部会長会議に以下のことを依頼する。
 - i. 各分会・各支部に、本委員会との連絡窓口として、「会員拡大・技術士活性化推進委員」の設置を依頼する。
 - ii. 各分会・各支部ごとに、拡大目標人数を設定し本委員会に申告頂くよう依頼する。
 - iii. 参考数字として、本年度拡大目標(3千人)を分会別支部別に按分した一覧表をお渡しする。

政策委員会(概要) 報告

政策委員会委員 小出 剛(農業・福岡)

本誌では、はじめての政策委員会報告をさせていただきます。今期第1～4回委員会の概要です。本委員会では、先の『技術士ビジョン21』に基いて決定した『組織・制度改革への行動指針』を受け、①基本事業検討②代議員制度検討③地域組織検討④定款等諸規定検討の四つの小委員会を立ち上げました。委員長は永田副会長、小委員長には、それぞれ4人の理事(副委員長)が決定。委員は各小委員会に配置され、私は希望通り③となりました。毎回、本委員会(2～3時間)後に小委員会(1～2時間)が開催されます。皆様のご意見を拝聴の上、会議に臨みたいと思いますので、今後共宜しくご指導の程お願い申し上げます。

I. 第1回政策委員会(05.07.22)

1. 理事会に対する要望事項

役員改選に伴い異動があった今期の組織・制度改革本部委員構成を常設委員長など役職者の他にも支部出身の本部委員を加えるよう要望する意見を出した。この旨を委員長が働きかける事となった。
2. 政策委員会の中の小委員会構成を決定

基本事業検討小委員会委員長……岩熊副委員長
代議員制度検討小委員会委員長…春田副委員長
地域組織検討小委員会委員長……高橋副委員長
(委員:熊須、奥村、佐藤、村山、小出、大野)
定款諸規程検討小委員会委員長・安田副委員長

II. 第2回政策委員会(05.09.08)

1. 議題と進め方
 - (1) 公益法人改革 基本事項……省略

(2) 事務局改革

縮小だけでなく、ダイナミックな提案を受けて事務局改革に向かう。

(3) 代議員制度

代議員制度への移行を前提として検討して行く。

(4) 地域組織

技術士会が内より外向きに活動するために地域組織を検討するが理念が必要で地域組織検討小委員会として、県単位の技術士会活動のアンケートを支部長会議に依頼する。

(5) 定款等

外部からの要請による変更ではなく、技術士会内から提案の形で進めたい。

求める。

① 第2段階として、3～5月に公益法人改革法制度化を参考にしながら、提案した定款2～3条の整合を図り、これに適した組織の具体案を作る。

② 第3段階として、6～9月に会員への周知を図り最終案を取り纏める。

2. 代議員制度検討小委員会

① 他の学協会での代議員制度に関する調査報告があった。応用物理学会、電気学会、日本化学会、日本弁護士連合会、日本弁理士会、科学工学会、電子情報通信学会、日本建築学界の8学協会であり、内容は会員数、代議員数、総会の持ち方、代議員選出方法、などであるが、なお詳細な実態把握のため、全会員の協力を得たいとしている。

② 18年2月までに、代議員の役割・選出方法の案を作り、支部・部会との意見調整を行う計画とし、9月までに最終案を委員会審議したいとしている。

3. 地域組織検討小委員会

①支部、府県単位組織のあり方現状の把握、②新地方組織への移行に向けた条件等の具体化、③新地方組織での事務局のあり方、④現行支部組織に関する当面の課題対応の四つを取り纏める必要があり、18年2月までに①と④に関する成案を目標としている。

①の手段の一つとして、支部長各位に依頼した調査票もお蔭様で全部回答を受け、現在は関東内各技術士会長への調査依頼済みと共に整理取り纏め中。18年10月までに全ての最終案を委員会審議終了～理事会付議・報告を目標としている。

4. 定款等諸規程検討小委員会

① 基本事業見直し及び公益法人改革に対応した定款、細則等諸規定の見直しについては基本事業内容等の明確化を待って着手。

② 諸規定間の体系及び整合等見直しについて検討継続。

③ 委員会に関する規定の整備策定等に関しては、実行委員会委員の任期規定について18年1月理事会での中間報告案を作成、関連規則案を5月理事会に付議する予定。

④ 常設委と実行委との連携強化及び委員会関連規程整備検討では18年11月理事会付議を予定。

Ⅲ. 第3回政策委員会 (05.09.29)

1. 基本事業検討小委員会

① 公益法人改革…当面自由意見交換、担当を決めて検討に入る。

② 青年技術士交流会との面談を実施

③ 倫理とCPDが技術士についてやるべき業務の洗い出し。

2. 代議員制度検討小委員会

① 総会に代るものとしての代議員制度の他に他の組織の制度も検討。

3. 地域組織検討小委員会

① 前期の政策委員会で詰められた組織のあり方(案)を詳細検討し進める。

② 支部長へのアンケートのほか、関東内の各県技術士会長にもアンケート実施案について検討

③ 検討内容は逐次支部長会議(年4回)に報告する。

4. 定款等諸規程検討小委員会

① 「定款を含む諸規定のあり方」の見直しと実行案の作成。

② 業務委員会で、プロジェクトチーム審査に関する原案作成を予定しているのでこれに協力する。

Ⅳ. 第4回政策委員会 (05.10.27)

1. 基本事業検討小委員会

検討目標と検討項目を次のとおり決定。

① 第1段階として、17年11月～18年2月に定款2条(目的)と3条(事業)の原案作成、このため委員会での議論を月刊誌に公告し、意見を

海外業務促進実行委員会ニュース(1)

海外業務促進実行委員会 九州委員 宮田 守次（金属・北九州）

1. いきさつ

前任者田中厚一氏の後任として、平成17年6月より平成19年6月まで2年間標記委員となり、8月度、10月度と出席してきたので、最近の日本技術士会海外業務促進実行委員会における活動報告をする。今後チャンスがあり次第、「技術士だより」を通して海外業務促進についてお知らせをしたい。なお九州支部業務開発委員会では毎月報告しており、諸資料は九州支部に保管してあるので、関心をお持ちの方は是非ご覧いただきたい。

2. 海外業務促進実行委員会の業務

(1) 当委員会は次の事項を行う。

- ① 国内及び海外の関係機関（政府関係機関も含む）を対象とする海外関連技術士業務の開発・発掘のための活動
- ② 本会会員に対する海外関連業務の仲介・斡旋
- ③ 本会が受託する海外関連業務の推進及びこれに従事する会員（グループの場合を含む）の選定
- ④ 海外関連業務の斡旋を希望する会員の登録
- ⑤ 会員に対する前各号の事項に関する情報提供及び啓蒙活動
- ⑥ その他海外関連技術士業務の開発・斡旋を促進するための業務

(2) 平成17年度活動方針

- ① ホームページおよびインターネットを通じての会員への情報提供活動を強化する。
- ② 業務の仲介・斡旋は情報提供を中心に行う。
- ③ 技術士業務の開発・発掘について次の事項を重点的に進める。
 - ・中国への専門家派遣業務促進を継続する。
 - ・JICA、JBIC等のODA関係機関、国際機関等における技術士の活用、資格評価の促進を図る。
 - ・コンサルタンツ等民間企業への専門家仲介を促進する。
- ④ 海外業務斡旋を希望する会員の登録について最新データを維持する。
- ⑤ 国際交流・海外業務促進に関する研修会を

CPD活動の一環として開催する。

(3) 組織としては次の小委員会を設置して活動する。

①組織・制度小委員会、②情報小委員会、③業務開発小委員会、④研修小委員会

3. 最近の海外業務関連の情報

(1) 海外業務希望登録者専門技術内容一覧表の作成完了（日本語版、英語版）

現在約150名の技術士より登録希望者があり、No、生年、部門、専門技術の4項目で作成されている（個人名は伏せてある）。これを国内のJICA、在外機関などに配布している。技術士会本部に照会があり、専門技術内容などから、相談があったときに、当該番号の技術士に連絡し、意向を打診してOKならば、初めて本人の詳細資料を提供し、具体的な受託の実施をすることになる。

お願い：継続中で積極的に海外業務専門家登録をお願いしたい。（本部に連絡していただきたい）

(2) 技術士パーソナルDB（業務受託関連データベース）テスト運用について

(1)項とは別に、技術士会本部では、会員各位の基本情報の他、国内及び海外業務受託関連事項の登録に就いて、利用者を限定してテスト運用を開始した。実際に全員対象とする時期は、テスト運用を行い、システム修正をした後となる。詳細フォーマットは本部に照会されたい。

(3) 海外からの専門家派遣募集情報

希望者は技術士会本部に問い合わせていただきたい。

① 欧州復興開発銀行（EBRD）日欧協力基金連絡事務所より、7件の照会

・カザフスタン：企業内容：電力用コンデンサーの設計・製造及び販売
コンサル業務：生産管理と経営の支援
SIA 募集

・セルビア：企業内容：非鉄金属の探査・採鉱・選鉱と精錬販売
コンサル業務：鉱山・選鉱場のシステム改

善と探鉱計画の作成支援

- マケドニア：企業内容：防水用アスファルトの製造
コンサル業務：環境マネージメントシステム構築、ボイラーの環境・熱管理と省エネ対策、排水処理指導
- マケドニア：企業内容：衛生陶器の製造
コンサル業務：環境マネージメントシステム構築、炉の熱管理・省エネ対策、排水処理対策
- マケドニア：企業内容：ホテル経営
コンサル業務：経営・販売促進の支援
- セルビア：企業内容：健康・スポーツ施設並びにホテルの建設・経営
コンサル業務：温泉を活用した施設並びにホテルの建設・経営支援

- ヘルツェゴビナ：企業内容：ホテル経営
コンサル業務：経営・販売促進の支援

② 韓国中小企業振興公団日本事務所より3件の照会

- 韓逸鍛造工業(株)：企業内容：リングギアなどの型鍛造品製造
コンサル業務：リングギアの金型設計及びハンマー型鍛造技術指導
- KRICO 環境技術(株)：企業内容：加熱炉の設計・製造
コンサル業務：火葬炉の設計技術
- (株)ドウリ素材：企業内容：建築用資材用パネル製造・販売
コンサル業務：ゼオライト、ホルマリンのような無機鉱物を利用した建築用パネルの生産技術及び生産設備の指導

第32回技術士全国大会（福岡）開催される



記念式典



大会委員長挨拶



分科会総括



大会宣言



記念講演



鏡割り



交流パーティ



博多をどり



神楽システム

第32回技術士全国大会（福岡）開催結果報告

第32回技術士全国大会(福岡)実行委員長 甲斐 忠義（建設・福岡）

1 はじめに

「^ぎ技の連携・培う地域の新文化」をテーマとした第32回技術士全国大会（福岡）が関連行事を含めて10月18日～21日に開催され、無事終了した。大会記念式典には、630名を超える参加申し込みがあった。以下大会の概要を報告する。

2 分科会

分科会の運営方針は、実行委員会に属する分科会委員長と各分科会の主査が開催のねらいと背景、講演テーマの選定、分科会の取りまとめを検討し、大会委員長に説明報告する形で行われた。発表者の原稿書式も九州支部で用いられているスタイルとした。

(1) 第1分科会「アジアへのかけはし」

第24回の技術士全国大会（福岡）でも取り上げたテーマである。前回は、アジア諸国の研究生の教育活動を北九州地区の技術士が担当している報告であった。前大会当時に比べ今日の東アジアと九州との経済、人材交流、物流、観光関係は拡大の一途をたどっているが、今後さらに友好な近隣関係構築のために技術士としても、環境、食料、エネルギー、災害などの対策のために技術交流をしていこうとするものである。この場合、異文化を理解し、国際的視野で取り組む必要があることはもちろんのこと、技術士もコミュニケーション能力を備えていなければならない。

(2) 第2分科会

「環境保全と安全・安心の国づくり」

安全・安心の国とするために、良好な環境確保、食の安全確保、自然災害の減災対策の確保という分野から取り上げたテーマである。まず環境部門では、1960年代の深刻な公害問題を産学民官の取り組みにより克服し、国際環境協力や北九州エコタウン事業

などの環境政策を展開する北九州市環境局長の基調講演の後、循環型社会の取り組み事例などの報告があった。次いで食の安全・安心に向けて生産段階と消費者の信頼確保についての取り組み対策の報告があった。自然災害では、福岡西方沖地震の被害実態報告と不知火海の高潮災害の危機管理対策が発表された。今後技術士会としても減災対策への取り組みを拡大しなければならない。



分科会の様子

(3) 第3分科会「地域振興とNPOとの協働化」

近年地方の自立化という意識が高まり、まちづくりやものづくり及び環境保全への取り組みにNPO法人化された団体が活動している。第3分科会は、NPOと技術士の協働化をテーマとしたものである。基調講演での里山づくりや、水辺の取り組み事例、熊本の石の文化とまちづくり活動の事例や河川流域圏におけるNPO活動の必要性、自治体との協働化の課題など発表されたが、最後にパネルディスカッション形式として取りまとめ、NPO活動に技術士が参画すべきであるとした。

(4) 第4分科会「技術者倫理」

この分科会は、日本技術士会生涯教育推進実行委員会との共催で開催した。同委員会が全国で募集した「技術士CPD・技術者倫理／技術者関連倫理の

研究・事例」の中から発表者が選任された。基調講演では、倫理的意思決定プロセスA B E T（米国工学系大学課程規準）の紹介がされた。今後技術者倫理の必要性を多くの会員が認識し、日常業務の遂行に活かしていただきたい。

(5) 第5分科会「青年技術士の活動」

昨年の北海道大会で初の青年技術士分科会が開催された。そこで青年技術士一人一人の意識・行動も大切であるが技の連携によって新たな役割を見出し今回の大会でさらに議論を深めたものである。今回青年技術士交流実行委員会のネットワークにより各支部・本部代表のパネリストが集合した。青年技術士会員には、科学技術創造立国を担う中核者としての役割を自覚しつつ諸問題解決に取り組んでいくことを期待したい。

3 記念式典

来賓の文部科学大臣（代理）、九州経済産業局長、九州農政局長、九州地方整備局長、福岡県知事と主催者の都丸日本技術士会会長、光岡九州支部長外役員が壇上に着席、630名の参加者が勢揃い。会場の厳粛な雰囲気の中、記念式典が開始された。主催者代表の都丸会長は、平成18年度からの第3期科学技術基本計画の重要政策の一つである科学技術関係の人材の養成・確保にこの政策の一端の担い手として活動を強化していくことを表明した。来賓挨拶に続き今大会の大会宣言が読み上げられた。今大会宣言には、特にわが国のアジアワイドの発展に先導的な役割を果たすという具体的な技術士活動が述べられた。分科会報告では、第1から第5の分科会主査とこれを総括した大会副委員長の報告があった。



記念式典の様子

4 記念講演

枯渇する石油に代わるエネルギーとしての水素エネルギー利用・燃料電池の技術開発が急務である。村上敬宜教授は、本年10月から福岡市西区に移転した九州大学大学院で水素発生のプラントを設置し開発研究を行っている。2020年に100兆円産業となる水素利用社会の概要や、技術開発の現状と課題を話された。燃料電池などの水素利用機械システムの統合技術を開発する研究教育組織として統合技術博士コースを設置するなど異なる専門技術の修得、インターンシップ、国際連携体験を通して広い視野を有する博士を育成するということを強調された。



記念講演の様子

5 交流会

会場を移し、350名の参加者の下、18時開宴。歴代会長 梅田氏、佐藤氏、清野氏の参加者への紹介の後、永田副会長の乾杯発声によりにぎやかな一時を迎えた。博多芸者の艶やかな伝統民謡のおどりや人の動きを音楽と映像に変換する「しくみデザイン」の実演などのアトラクションの後、来年度大会の本部への引継ぎ式が行われた。山口運営委員長始め、関係役員は、はっぴ姿で参加を呼びかけた。20時交流会終了。

第一部会活動報告

第一部会長 黒江 浩（機械・福岡）

第一部会では、平成17年度第1回技術研修会を10月18日、開催した。当日から第32回技術士全国大会がホテルニューオータニで開催され、それに参加される機械部会、電気・電子部会からの参加要請もあり、懇親をも兼ねて開催した。ただ機械部会は講演会、電気・電子部会は見学会と希望が異なり、調整が困難であったため、夫々の支部幹事に世話役をお願いして、講演会と見学会を平行開催した。

また講演会終了後簡単な懇親会を行い、本部、他支部、他部門の方とも懇親を深めた。

I. 講演会

博多パークホテルにて開催

(1) ゲートポンプの開発 機械部門

福岡 佐藤修治氏

【要旨】

最初に、発見、発明の意味と方法についての説明があり、講演者がタッチしてきたゲートポンプの概要および発明から高機能化展開までの過程が解説され、特許等の有効活用について提案があった。

【内容その他】

発見は有効な組み合わせをつくることであり、意識的な活動・無意識的な活動・意識的な活動の連続よりなること、また、発明はテーマを明確にし、情報を収集し、考案し、評価することにより行なうものであり、基本考案を案出するだけでなく、その後の展開を行い、効果を高めることが大切であるとの解説があった。

ゲートポンプは従来別々のものであったゲートとポンプを組み合わせることにより、排水施設の簡素化、コスト削減を行なったものである。ゲートポンプの開発は、基本考案だけではなく、ポンプの横軸化、高速化などの展開を行い効率を高めた。

技術開発の重要性が増してきている今日、発明の

方法を知ることにより、特許などを増大させるとともに、有効活用を図る必要を事例を示して解説された。

(2) ドーバ海峡海底トンネル掘削機苦労話から

機械部門 福岡 野見山益生氏

【要旨】

ドーバ海峡トンネル掘削機に関し、フランス側2機、日本企業が受注し、予定の工期で19kmの掘削に成功するまでの苦労話について解説があった。

【内容その他】

NHKプロジェクトXよりビデオをDVD-Rにダビングし、約40分スクリーンで鑑賞した。

トンネル掘削開始間もなく断層帯より出水事故が発生し、また、チョーク層がカット面板に密着し、回転不能で亀裂が発生し改造修理を実施した状況、トンネル全体の仕様（海面よりの深さ、掘削全長）、地層図、機械の構造図（フランス側、イギリス側）、工程表等をスライドで説明された。

今回、ビデオをDVD-Rにダビングして鑑賞したがDVD-Rはパソコンに名前をつけて保存ができること、技術士の生涯研鑽であるCPDに関し、DVD-Rにしたものを九州各県の、CPD委員に転送し、パソコンに保管しCPC研修に利用することを目的として雛形として発表された。

特に一般共通課題（Aグループ）について集録しCPD研修の充実発展に寄与するよう協力要請があった。

II. 見学会

福岡地区水道企業団 海水淡水化センターを電気・電子部会と合同で見学した。

研修会終了後、技術士全国大会のウェルカムパーティで更に親交を深めた。

地域だより

佐 賀

平成17年度の地域活動

地区代表幹事 藤永 正弘（建設）

佐賀地区活動は平成17年度前期において、会員が結集した第11回西日本技術士研究・業績発表年次大会も無事終了し、地区CPDや例年通りの地区活動を開始しております。

本年は、地区CPDのメイン会場を佐賀大学から千代田町福祉センターに移動したことで、地域住民との関わりを強調した活動となり、町広報誌にも開催案内を掲載、地域住民の参加を促し、地域社会の

貢献に寄与することも目指しています。

11月26日開催の技術懇話会は、会場の特性、地域性を活かし「新たな危機管理の対策プラン」を国交省武雄河川事務所長の尾澤氏に、「10番目の惑星発見？太陽系の周辺をめぐる話題」を長崎県天文協会の松本氏に講演をお願いしました。

NPO法人技術交流フォーラムの事業として実施している巨勢川調整池利活用懇談会運営は地区会員が主体で行い、地元住民を中心としたワークショップ手法等で次第に成果をあげつつあります。

そのほか、地盤沈下、品確法検討、有明海再生、湾岸道路、城原川、水辺空間創出事業など、地区会員が情報を共有しながら地域社会貢献を目指しています。

宮 崎

地球温暖化による異常気象と台風災害の怖さ

地球環境研究調査委員会委員
山田 雅弘（農業）

今年9月6日に九州南部を襲った台風14号は、台風災害に慣れている宮崎県民を恐怖に落とし入れました。それは、前日（5日）の夜から増水した大淀川の水位が夜半に危険水位を超え、6日の早朝に氾濫しそうになったためです。大淀川の河川管理者は、宮崎市の中心街を氾濫から守るため、中心街より上流にある大淀川堤防を横断する幾つかの内水排除水門を操作しました。その操作が適切であったかどうかは、現在調査中のようです。

ただ明白な事実とは、宮崎市周辺の住宅地で、少なくとも略半世紀経験していない程度の床上浸水が発生したことです。住民は水の勢いから逃れるため、我が家から脱出し、ゴムボートで安全な場所に避難しました。米国のニューオールリンズを襲ったハリ

ケーン「カトリーナ」の凄まじい破壊力をテレビで見ながら、その数日後に自分達が1300mmに達する集中豪雨に襲われると思っていた宮崎市民は、ほとんどいないと思います。テレビや新聞も想定外と報道しています。私も予測ができた訳ではありませんが、たまたま(株)日本技術士会地球環境研究調査委員会の第3期報告書の報告会（本部専手第2ビル5F会議室）で、私の担当分野の「森林の生態系」と「水資源の可能性」についてパワーポイントを利用して報告し、地球温暖化による異常気象を説明したばかりでした。私は、平成14年4月から2年間、JICAのシニア海外ボランティアとして、マレーシアに派遣され、水田灌漑技術の指導をしてきました。この間、マレー半島東岸のモンスーンによる豪雨と洪水を体験し、配属機関気象観測所の過去30年間の降雨記録から、最近10年間の年間降雨量増加の傾向を認識していました（平成16年度（第22回）技術士研究・業績論文集に掲載）。同じアジアモンスーン域に属する日本において、今回の台風14号被害は、地球温暖化現象の表れとして、想定外ではないように感じています。

鹿児島

青年部会 WG：勉強会の紹介 テーマ；高レベル放射性廃棄物

地区代表幹事 竹元 幹生(応用理学)

今般、上記テーマによる勉強会が青年部 WG の一環として発足したのでその概要を紹介したい。

提案者：三田和朗（応用理学 / 総合技術監理）

1 趣旨

高レベル放射性廃棄物処分場について、今春、鹿

児島県笠沙町は大いに揺れたが、原子力発電所から発生する所謂「放射性廃棄物」問題の実態と現在考えられている処分方法について中立な立場で、技術的な問題を掘り起こし、知識として学習する勉強会。

2 形態

様々な考えと知識を持つ会員から賛同者を募り、各自で資料収集を行い、知識を持ち合い、年3～4回の合同勉強会を開き、何が問題であるのか、安全な処分方法とは何かなど、突き詰めていけたらとの願いあり。

大分

“みちづくし in 大分 2005” 「道守九州会議交流会」 開催される（2005.10.6/7）

原 千砂子（建設・環境）

「道守会議」をご存知でしょうか？経済優先の社会の中でいつの間にか道は車の物になってしまいました。古くから道は人や物を運ぶだけでなく、文化や情報を運び産業を興しました。人々は暮らしの中で道を共有の財産として守り、大切にしてきました。国土交通省では、もう一度その精神に立ち返り、人と道のかかわりを大切にしようとボランティアサポート制度を取り入れてきました。

道に関するボランティアグループなどの道に関す

る活動されている方々の交流のため県ごとに道守会議事務局を置き、普及活動をしています。はじまったばかりの九州各県の道守会議が交流し、情報交換するため、昨年から交流会が開催されています。熊本に続き第二回目の今年は大分県別府で約600人が参加して開催されました。私は実行委員と事務局を兼ね、準備からかかわりました。

別府の良いところを知っていただきたいと、温泉館など歴史ある建物5箇所での分科会、夜は別府八湯トラストや県内の道の駅による出前料理で懇親会、翌日は臼杵・日田・湯布院・竹田・杵築・別府の6コースに分かれ現地見学会を実施し、好評の内に無事終了することができました。

道守会議では一般会員（会費無料）を募集しています。詳しくは「道守」のHPまたは「道守通信」をごらんください。<http://www.michimori.com/>

道守九州会議事務局 tel 092-473-1057



竹瓦温泉 二階会議室



高橋記念館 潮聴閣



別府市中央公民館

I

熊本大学上海フォーラムを 兼ねた上海旅行

吉田 紘彬（応用理学・熊本）

昭和40年代山陽新幹線や関門架橋～九州縦貫自動車道の建設が盛んになり、水理地質や土質工学を勉強しながらの仕事で、応用理学（地質）部門の技術士となった。当時技術士には何のメリットもなく、売り物になる技術を持ち、それを自分で売って仕事をするのが技術士と教えられ、公共事業を対象に技術営業～現場責任者として歩んできた。独立した後、周波数効果を利用した電気探査を開発して、水脈調査を売り物にさく井業者や建設コンサルタント業者に働きかけているが、ほとんど元は公共事業であり、公共事業抑制の波は避けようもなく、苦労の連続である。このような状況の下、10月27～28日に開催される熊本大学上海フォーラムの話があり、技術士仲間2～3人に呼びかけて、老後の仕事探しを名目に参加した。睡魔を振り払いながら英語・中国語の研究発表や事業紹介のスクリーンを眺めた後の自由な時間に、上海で事業をやっている後輩達や、四川大学の友人から、中国での仕事事情を聞くことができたのでその一部を紹介する。

今から中国で事業を行うなら車の板金塗装業だろう。日本のような技術は中国には無く、金持ちが相手に最初に金額を決めておくことが肝要、信用を得られれば販売店が客を紹介するようになるだろう。次に、水道水をそのまま飲める装置の開発（硬水の軟水化）、日本の業者が何社か挑戦したが、いずれもフィルターの目詰まりで失敗している。公共事業では高級官僚への手当（袖の下）が必要で外国人には無理、合併企業を起こし、高級な技術のバックアップをもって、他の国内業者との差を見せることが必要である。中国の技術者には工程士の資格があり、日本の技術士は高級工程士より上位にランクされる

らしい。公共事業の内容では上水、灌漑用水・汚水処理などの水問題に関するものが伸びるだろう。さらに、三峡ダムの完成・枯渇しかけた黄河へ長江から水を引く計画はあるが、多くの環境問題が発生するだろうから、それらに備えた技術も必要になる。自分で事業をするつもりなら、だまされず、また、誤解を生まないために通訳無しでの会話が望ましいとのこと。

一般的上海事情は、上海空港から市内に向かう道路に沿ってリニアモーターカーが300～400km/hrで走り、市内は高層ビルが建ち並び、市民が憩う公園も数多く整備されていたが、地下鉄切符の自動販売機は故障中で使えず、ホームへの出入口には日本と同様な自動開閉器はあるが、これも故障で使えないものがあり、自分を含めて客が行ったり来たりする場面が見られた。それにしても、3～4年前の上海ツアー時に比べて町並みはきれいになり、治安が良くなっているのを強く感じた。当時個人の家を建てるには¥250万円あればよいと聞いていたが、現在は¥3,000～4,000万円の家が売れているとのことである。通りに面したきれいなビルの間の小さな道に入ると、そこには古いレンガ作りの住宅があり、そこで生活する人々も映画に見る古い上海の下町姿であり、人民広場の地下に作られた古い町並みと共に癒される風景であった。土産品の買い物は値切り交渉をゲーム感覚でやるとおもしろい。友人は値札の50%までは値切れると言うが、私には30%までが限度であった。外灘の夜景は上海名物であり、今回の旅行では、クルージングとビルの屋上からの夜景を楽しんだ。前回は気付かなかったが、遠景のネオンに日本企業の名前が多く見られ、反日感情が強いと言われる中でがんばる日本企業に心強さを感じた。

商業都市上海を3～4年の間をおいて見ただけであるが、中国の先端技術は相当進んでいても、それらを支える基礎技術の繊細さに欠け、維持管理面までは十分手が回りかねているように感じられ、きれいになった都市の陰で、これから整備されようとする構造物も多く、オリンピックや万博まで当面外装を急いでいる風であった。

Ⅱ

ボランティア考

完戸 鶴（農業・福岡）

今年11月20日で81才になりました。“ホォー”との思いです。普段は年寄りの意識はさらさらありません。でも、さすがに本業の技術士業務は殆どなくなり、支部CPD審査委員長を仰せつかっているだけです。いつもはボランティア活動をしています。

というのは、住いが太宰府市、国指定特別史跡“大宰府跡”区域のど真ん中。ということもあって、平成4年4月に（財）古都大宰府保存協会が委嘱するボランティア「大宰府史跡解説員」を始めました。

1,300年前から約500年の間、奈良・平安時代に、太宰府は大陸向けの玄関口でした。古都大宰府の遺跡がいたるところにあり、市域の15%が史跡地です。それで毎週火曜午後は大宰府展示館、金曜午後は太宰府館で待機、また随時、協会の依頼で史跡の案内解説をしています。全国からお見えになります。そして“太宰府は天満宮の街と思っていたが、すごく奥深いところですね”といって帰られます。

ところで今度もう一つ、ボランティアの仕事が加わりました。天満宮のすぐ隣りに10月16日に開館した九州国立博物館のボランティアです。今春、応募が800名余り、リポート提出約600名のうち250名が選ばれました。私のボランティア登録番号が250番、なんと最年長。5月末のボランティア登録式では、“決意表明”をさせられました。その後、事前研修を受け、開館後は毎週木曜の午後、文化交流展示室の展示解説をしています。

大陸向けの玄関口の立地に相応しく、九州国立博物館のテーマは「アジアとの交流による日本文化の成り立ち」です。アジアとの繋がりがにじみでる“生きた博物館”のお役に立ちたいと思っています。

こんど九博が加わりましたが、これまで、技術士の仕事と一緒に、史跡解説のボランティア活動が続けられました。この経験から得た私の“ボランティア考”をご紹介します。見ましょう。

まず、これは自分からやろうと思い立ったことです。この自発性が基本だと思います。やれといわれたことはありません。この点、会社勤めの仕事とは全く違います。それだけに愛着がでできます。

つぎに、ボランティアとはいっても勝手気ままは許されません。マンネリにならないよう、いつも新鮮さを創りつづけることが大切で、それには常に新しい知識、情報を求め、仕事の価値を高める努力が必要です。幸い太宰府では発掘調査などの新情報が続々と出てきます。常に新しさを学び採り入れて、活き活きした解説を創り上げること。これは技術士のCPD研鑽と同じです。また生涯学習に繋がります。

それから、いつもお見えの方々に喜んでいただいていると実感します。そこから社会のお役に立っているとの自信と自覚が自然に生まれてきます。それだけに生半可では済まされません。責任ある行動が求められます。

さらに、ボランティアは無報酬が原則です。話していくらの仕事ではありません。ただし、「心のふれあい」という、金銭には換えられないすばらしい報酬が限りなくいただけます。終わった後の「いい話を聞いた。ありがとう」の言葉が無上の報酬。解説員の冥利に尽きる時だと思っています。

ただ最近、交通費、食事代などの経費は受益者負担で支払われることが多くなりましたが、これは時代の趨勢と前向きに考えています。

ともかく、ボランティアというと、なにか好き放題のやりっぱなしと思われ勝ちですが、そんなものではない。自分で決める自発性、常に自分を磨く自己啓発と創造性、自信と自覚を持ち得る社会性、対価を求めず心の豊かさを求める無報酬性、この四つがボランティアの必須要件だと思います。とすると、無報酬以外は、その活動内容はわれわれ技術士と同じことのように思われます。これが私の“ボランティア考”の結論です。

みんなからよく、年より若いといわれますが、もしもそうであれば、自分で仕事を作り上げ、頭と身体を働かし続けて来たボランティア活動が役に立っているのでしょう。これからも、身体の許す限りこの活動を続け、若さを保つみなもとにしたいと思っています。

餓鬼の頃の最悪な出来事

井川 仁（建設・宮崎）

終戦後60年の節目の年に、くしくも当時17歳であった私も、区切り良く77歳の喜寿を迎え、これを機に餓鬼の頃を振り返って見ました。その一齣を認めてみます。

私が小学校一・二年生頃のある春先の日の事です。五六年生を頭に山遊びしながら落採りをして山裾に降り立った所、其処には目にも鮮やかな菜の花畑が広々と展開しており、木々の若葉の色とは対照的な黄色はとても鮮やかに見え、遊び疲れた私達の心に安堵感をもたらしてくれました。皆は暫く付近の畦道に腰をおろしたり寝転んだりして一時を過ごし、暫く休んで帰る事になり畦道に列をなし移動を始めました。とその時、先頭付近の誰かが持っていた細竹で菜の花をチョン切ったようで、“こらおもしろ”（これは面白い）と言う声が聞こえてきました。その仕草は最後尾付近に居た私達にも一機に伝わり、皆その面白さに善悪を忘れ熱中し菜の花をチョン切りはじめ、程なく一反歩位いをチョン切った頃、持

ち主が駆け足で大声を上げながら飛んでこられた。持ち主の顔は青ざめており、発する言葉も震えていて、第一声は“こら止めんか、なにゅすつとか”（何をするのか）に続いてお前たちは、”でじなこつを（大変なこと）してかして呉れた”と言う言葉でした。その後の言葉は、事の大きさに怯えの余りよく覚えていない。

ところがこの餓鬼連中の中に持ち主と親戚になる者がいて、持ち主はその子を発見した時、“なんかお前達か”と一寸大きい言葉で言い、その後ある時間説教され放免されましたが、皆その後は気が重く言葉少ない帰宅になりました。この後始末は関係した数軒の親達が集まり相談し、菜種油の収穫料金に見合うお金を支払い勘弁して貰った事を聞されました。

関係したどの家の餓鬼達も、それぞれの両親から物事の是非に付いて懇々と説諭されたようで、この時改めて事の重大さを感じ取り、以後皆は気が優れず精彩を欠いていました。

当時、学校・家庭では徹底した道德教育や躾けをする環境下であり、また、菜種油が貴重な品である事を承知しながら、思いもよらぬ事件を引き起こした疑問に関して、今、世に言う群集心理・烏合の衆と言った言葉と重ね合わせ振り返っています。

技術情報

電線地中化事業

釜下 英巳（建設・総合技術監理・福岡）

皆さん、近年街並みから電柱や電線が少しずつですが無くなっているのをお気づきですか。

特に、私の住んでいる町の「博多駅周辺」や「天神界限の主なストリート」からは、電柱や電線が無くなりすっきりとした街並みに生まれ変わって来ています。

この様に、道路の沿道に立ち並ぶ電柱や、この電線に添架されている電線類を道路の下に埋設して良質な景観の向上に資する整備事業を「電線地中化事業」と呼んでいます。私はこの事業計画に建設コンサルタントの立場で10数年に渡って携わって来ました。

それでは、九州や福岡地区ではどの程度幹線道路において地中化事業がなされて来たかをH16年の統計資料で見えますと、九州全体では12.7%、私が住んでいる福岡市では18.9%、北九州市では11.5%となっていますが、首都東京の30.6%、我が国第二の都市である大阪市の22.6%と比較してみると、まだ低い整備状況である事が判ります。

又、九州地区内においても地中化率が一番高いのは鹿児島県の23%で、もっとも低い県は大分の7.2%とその差は3倍以上の開きがあるようです。

これは地中化の整備費用が1km当り6億8000万円もの費用がかかる為、財政に比較的余裕のある自治体、又は、優先度の高い路線から整備せざるを得ないと言った理由が考えられます。

そこで、自治体の財政支出を支援するために、電線共同溝法によれば管路部の負担を国費で1/2充当することが認められているようです。又、道路開発資金の活用や日本政策投融資銀行の融資等も受けられるようです。

その他では、新しい制度でより事業費を20%削減する方法が考えられていますが、簡単に言えば地中化設備をよりコンパクト化することで建設費を抑制する方法です。しかし、この方法はコンパクト化したために施設の裕度が少なくなり、より高い精度での設計や施行が求められています。具体例を挙げれば、管路の布設線形の制約条件が従来に増して厳しくなっている事等です。

最後に、私が地中化事業に参画することは、今尚生活環境で我が国と大きな開きがある欧米との格差を一刻も早く縮め、豊で、安心・安全な生活が送れる社会を創出するために微力ながら貢献することであると考えております。

IT推進委員会の報告

IT推進委員長 木下 茂広（建設・福岡）

IT推進委員会の報告となっておりますが、今年度は、まだIT推進委員会を開催しておりませんので現状と問題点を述べさせていただきます。

IT推進委員会の本年度の目標は、連絡網のメンテナンスを実施し確実な連絡網を維持していくこととしています。人事の異動等により、年度始めから出遅れた感じがあり、大変申し訳なく思っております。

漸く体制も整い、本部より新規入会のデーターも整備できたところです。

また、日本技術士会の全国大会も成功裏のうちに終わりました。この大会の案内等に携わり、その中で少し考えさせられることがありました。

それは、配信はしているけれども本当に読んでいただいているのだろうか？ということです。返事を求めても返事が返ってこない事象があったからです。

点検してみると、本人に届いてないもの、外の情報に紛れ込んで返事の必要を認識していないものなどがありました。

現在の状況は必要な折に一方的に配信を行っておりますが、より確実に届けるためには、時折返信を

必要とする情報を送りたいと思います。お手数ですがご協力をお願い致します。

現在の支部から全員への配信体制は、下記の通りで配信をしていますのでよろしくお願いいたします。

福岡地区	第一部会	担当	黒江 浩
		（敬称を略）	
	第二部会（あ～え）	担当	伊藤 整一
	（お～き）	担当	木寺 佐和記
	（く～さ）	担当	久保川 孝俊
	（し～た）	担当	桜木 靖徳
	（ち～の）	担当	長野 紘一
	（は～ま）	担当	長野 紘一
	（み～ん）	担当	木下 茂広
	（応用理学）	担当	平田 和彦
	第三部会	担当	和田 洋二
	第四部会	担当	小宮 伸行
	第五部会	担当	小出 剛
	第六部会	担当	松浦 茂雄
北九州地区	担当	長崎 治夫	
佐賀地区	担当	藤永 正弘	
長崎地区	担当	大橋 義美	
熊本地区	担当	加来 雄一	
大分地区	担当	吉良 文至	
宮崎地区	担当	新城 精一	
鹿児島地区	担当	竹元 幹生	

CPD委員会の報告

CPD委員長

伊藤 整一（建設、総合技術監理・福岡）

本年度の支部CPDは、第1回のCPDを4月23日(土)に「災害・減災」のテーマで実施し好評でした。定例としては、7月および10月に実施する予定でしたが、本年は6月3日に佐賀市にて催された「第11回西日本技術士研究・業績発表年次大会」への共催、および10月19日に開催された「第32回技術士全国大会」全面参加を以って代替としたところです。特に全国大会では、記念講演および5つの分科会において極めて有意なCPDとなったと思っています。

今年度の今後の予定では12月3日に支部忘年会を兼ねて3時間程度のCPD、および来年1月28日(土)

定期CPDを開催することとしています。

1月28日のCPDテーマは、「A-4 技術動向」とし、新技術を中心に目下3講演ほどに絞り適切な講演者と折衝中の段階ですが、11月中には具体的内容も決定される予定です。技術士の皆様に必ずや好評な演題になるものと自負しております。

CPDは技術士に課せられた義務のひとつですが、多くの会員の皆様の積極的参加をお願いする次第です。

今後CPDとして相応しい講演等のご希望や情報がありましたら、支部CPD委員会宛にどしどしお寄せいただき、支部CPDがより一層充実した内容となるようご協力のほど、お願いいたします。

なお、各地区および各部会でCPDを開催される場合の「講演シート」を支部ホームページ「CPD委員会」よりダウンロード出来ます。どうぞご利用下さい。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部) 入会

(地区) (区分) (氏名) (部門)

福岡 正会員 吉田 健二 建設: 〒819-1136 前原市美咲が丘1-11-1
 福岡 正会員 草野 康祐 建設: 〒819-1117 前原市前原西1-5-18-53
 福岡 正会員 山口 毅 建設: 〒816-0955 大野城市上大利4-5-31-403
 大分 正会員 岩男 道也 建設: 〒870-0876 大分市大字三芳1239-1
 協同エンジニアリング(株)
 鹿児島 正会員 豊島 英樹 農業: 〒899-6507 鹿児島県始良郡牧園町宿窪田2178-2
 霧島エンジニアリング(株)
 大分 正会員 宮野 和幸 建設: 〒870-0911 大分市新貝12-51
 九州建設コンサルタント(株)
 鹿児島 正会員 清水 一成 建設: 〒891-0115 鹿児島市東開町4-26
 アークコンサルタント(株)
 福岡 正会員 山下 雄一 上下水道: 〒819-0161 福岡市西区今宿東2-10-5
 グランデージ今宿412号
 福岡 準会員 光安 功智 環境: 〒819-0002 福岡市西区姪浜1-21-17-301号

☆九州地方技術士センター入会

(地区) (区分) (氏名) (部門)

佐賀 正会員 江口 勝 建設: 〒849-0306 小城市牛津町勝1326-5 ☎(0952)66-3794
 (株)精工コンサルタント ☎(0955)64-2237
 福岡 正会員 久田 幹夫 建設: 〒819-0013 福岡市西区愛宕浜4-9-7 ☎(092)891-4065
 西日本技術開発(株) ☎(092)781-2833

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

(地区) (区分) (氏名) (部門) (変更) (上段:連絡先/下段:勤務先)
 (連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ)
 福岡 正会員 森 喜男 建設 勤: 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-19-3 (博多小松ビル)
 アイケイコンサルタント(株)福岡営業所 ☎(092)483-8381 FAX(092)472-1175
 熊本 準会員 三宅美智子 環境 連: 〒862-0942 熊本市江津3-14-3 ☎(096)370-6040

H17年度技術士二次受験状況(受験者数) 17.8.6

平成17年度の技術士第一次、第二次試験の
 受験状況をお知らせいたします

区 分	受験申込 者数(人)	受験者数 (人)	欠席者数 (人)	受 験 率 (%)
福 岡 会 場	510	367	143	72.0

(総合技術監理部門)

H17年度技術士一次受験状況(受験者数) 17.10.10

区 分	共 通 目 的	適 性 目 的	専 門 目 的	基 礎 目 的
福 岡 会 場	534	4,301	4,234	4,224

H17年度技術士二次受験状況(受験者数) 17.8.7

区 分	受験申込 者数(人)	受験者数 (人)	欠席者数 (人)	受 験 率 (%)
福 岡 会 場	2,388	1,517	871	6,353

(総合技術監理部門除外)

逝 去 会 員

謹んでご冥福をお祈りいたします。

部 門	地 区	氏 名	逝 去 年 月 日
支部会員	建設	大分 濱 光春	17.7.20
"	"	福岡 力丸 良丸	17.8.12
"	"	熊本 山口 進吾	17.8.17
"	"	福岡 水上 信照	17.9.20

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	アジアエンジニアリング(株)	東洋測量設計(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	……………〔北九州〕……………	九建設計(株)
(株)建設環境研究所	日本航測(株)	日進コンサルタント(株)
(株)唯設計事務所	(株)九州設計事務所	ダイエーコンサルタント(株)
日本建設コンサルタント(株)九州支店	九和設計(株)	……………〔宮崎〕……………
中央開発(株)九州支社	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水工コンサルタント
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	(株)松尾設計	(株)ロードリバーコンサルタント
日本工営(株)福岡支店	(株)酒見設計	(株)ケイディエム
昭和地下工業(株)	(株)太平設計	(株)親協
第一復建(株)	冷牟田設計コンサルタント(株)	南日本総合コンサルタント(株)
(株)松本組	環境テクノス(株)	(株)宮崎産業開発
(株)エスケイエンジニアリング	……………〔佐賀〕……………	(株)西田技術開発コンサルタント
(株)福山コンサルタント	(株)精工コンサルタント	(有)福島測量設計調査事務所
(株)東京建設コンサルタント九州支店	新九州測量設計(株)	九州工営(株)
東邦地下工機(株)	西日本総合コンサルタント(株)	正栄技術コンサルタント(株)
大成ジオテック(株)	日本建設技術(株)	(株)東九州コンサルタント
富洋設計(株)九州支社	(株)九州構造設計	(有)日豊測量設計事務所
九州建設コンサルタント(株)福岡支店	新栄地研(株)	日測コンサルタント(株)
(株)サンコンサル	……………〔長崎〕……………	(株)水理設計
(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	大栄開発(株)	(株)ダイワコンサルタント
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	(株)実光測量設計	(株)白浜測量設計
(株)九州地質コンサルタント	西日本菱重興産(株)	(株)杉田測量設計コンサルタント
(株)タイヨー設計	大洋技研(株)	南興測量設計(株)
日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店	(株)親和テクノ	(株)アップス
(株)大建	(株)新栄設計事務所	(有)カツキ技術士事務所
(株)エス・ピー・エンジニアリング	扇精光(株)	(株)共同技術コンサルタント
新地研工業(株)	……………〔熊本〕……………	(株)国土開発コンサルタント
(株)カミナガ	(株)九州開発エンジニアリング	(株)都城技建コンサルタント
平和測量設計(株)	アジアプランニング(株)	(株)第一テクノコンサルタンツ
(株)高崎総合コンサルタント	……………〔大分〕……………	……………〔鹿児島〕……………
西日本コトラクト(株)	松本技術コンサルタント(株)	中央テクノ(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	協同エンジニアリング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
日本地研(株)	(株)日建コンサルタント	(株)久永コンサルタント
第一設計(株)	東亜コンサルタント(株)	コーアツ工業(株)
九州環境技術研究所	九州特殊土木(株)	大協(株)
西日本技術開発(株)	大洋測量設計(株)	(株)建設技術コンサルタンツ
(株)富士ピーエス	九州建設コンサルタント(株)	
大和コンサル(株)	西日本コンサルタント(株)	

会員情報の問合せ

今年から会員名簿発行が中止になり、会員情報の問合せは、次のようになります。

支部会員：①日本技術士会のホームページの会員専用コーナー（閲覧にはパスワード取得が必要）の「WEB名簿システム」において会員・準会員の名簿情報が閲覧できます。詳細については、月刊「技術士」（2005年10月号 P30）をご参照ください。
②所属の部会長（第7部会を除く）か、

所属の地区代表幹事に問合せ
部会長、地区代表幹事のお名前は、前回号の技術士だよりをご参照ください。
センター会員：①所属の部会長（第7部会を除く）か、所属の地区代表幹事に問合せ

CPD関連情報

- ①次回のCPD研鑽会は、1月28日(土)に開催。
- ②各地区及び各部会で開催される場合の「講演シート」を支部ホームページ「CPD委員会」よりダウンロードできます。（広報委）

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士9・2005

- ・“お客様の視点”で製品開発ができる技術者になる／鈴木素直
- ・技術者倫理規定と良心／中島賢二郎
- ・給湯設備と浴場施設の省エネルギー、環境保全と衛生管理／赤井仁志
- ・有機半導体は無機半導体を越えられるか？／小林征男
- ・「技術士ビジョン21」を担う「技術と倫理」論考「橋本典子教授の講演要旨を中心にして」／打田憲生
- ・食品技術士センターにおけるCPD／古西義正
- ・自然科学教育における技術士の社会参加活動／荒精一
- ・平成17年度第2回理事会議事録、常設委員会等委員名簿

[PE] 技術士10・2005

- ・研究・開発と知的財産権による権利保護の重要性／堀口隆司
- ・環境に配慮した建設業務の進め方／今澤伸次
- ・プリント配線板の最近の技術／高木 清
- ・感性を製品デザインに生かす／原 真一
- ・IEM2005香港・出席報告／高木重厚
- ・第11回西日本技術士研究・業績発表年次大会報告／藤永正弘
- ・WG－TMOの紹介／永見正行
- ・当会HPを利用した会員情報登録・確認のお願い

[PE] 技術士11・2005

- ・産官学連携と技術士への期待／宮田隆司
- ・豊かな環境づくりと倫理意識の醸成／櫛田晴美
- ・環境問題における新エネルギー（風力発電）の適合性／齋藤 浩
- ・廃棄プラスチックの付加価値マテリアルリサイクル／長岡 猛
- ・災害の教訓を最大限生かす減災と技術／松井義孝
- ・国内外におけるCPD制度－CPD（継続研鑽）シリーズを振り返って－／豊田恭平
- ・技術士と地域産学官の合同セミナー報告／大氏正嗣

編集後記

平成17年も残り少なくなりました。振り返りますと、今年は全国的に地震・水害が多発し、「防災」が大きくクローズアップされた年でした。

九州支部の最大行事でありました第32回技術士全国大会が多くの方々の参加により、成功裏に終わりました。今回のテーマである「技の連携・培う地域の新文化」のもと、記念講演では次世代のエネルギーとして期待されている水素エネルギーの魅力と課題について、分科会ではアジアとの関係、環境・安全安心、技術者倫理、NPOとの協働、青年技術士の活動等について活発な発表がされました。

支部長・センター会長として、多大な貢献をされてこられました水上信照先生が去る9月29日になくなりました。先生は常々「登録即入会」、「登録更新制度」の必要性を訴えられ、会員増強、技術士の社会的地位の向上に不断的努力を続けてこられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。（棚町）

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail：engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL：

<http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer>

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社